



写真・市谷 健 「お友だちが待ってるよ」「うん」

## やるか、やらないか

先日、大学で講演をする機会をいただきました。千二百名もの学生を前にしての話は初めてで緊張しましたが、これまでの人生で経験したことを中心に話をしました。

まだまだ人生の半ばで、失敗ばかりしていますが、人前で話す機会をいただけて多くの事を学びました。学生たちはノートを取りながら耳を傾けてくれましたが、自分自身

が一番勉強になりました。語る内容を考え、資料を作り、話の筋道を考えながら何度もリハーサルを重ねました。そうしているうちに、改めて、自分は多くの人たちから教えられ、学ぶことの多かったことに感謝の気持ちが溢れてきました。

誰でも人前で話をするのは苦手です。緊張するものです。困難な事に遭遇するといつ逃げたくなるし、楽な方向に向かいがち。苦手な事を一つひとつ乗り越えることが成長につながるはず、講演も天が与えてく

読む人の  
幸せを  
心に願って  
作る

# 喜びの タネまき 新聞 no.530

くださった学びの場、とお受けしたのです。

生きている限り楽しいことばかりではありません。苦しいことや悩むことに必ず出会う。そんな時に「やるか、やらないか」の二つの道があれば、気持ちを前向きに「一歩前へ。進んでやるか!」という気持ちを持ってこれからも歩んでいきたいと思っています。

株式会社タスキン社長

山村 輝治

だんだらマークはその昔、理髪店が外科医の先駆者だったから。赤は動脈、青は静脈、白は包帯という聞いてビックリの説があります。カットは気持ちよくてついつい眠くなります。



絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一步二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に隣はのぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」(書肆俣屋)、「森のくらし」(リヨン社)など。

## 「ぼくの床屋さん」

床屋さんは必要だ。放つておけば、ぼうぼうに伸びるものだから否応もなく散髪する。子どものときは仕上げにベビーパウダーを首周りにはたかれ、なぜか鼻筋にも白くつけられ、それが嫌だった。若い頃は肩まで髪を伸ばして床屋嫌いなときもあったっけ。気に入った床屋さんを見つけるのはなかなか難しい。とりあえず

近所で散髪していたが、そこが店を閉じてしまった。床屋が減り、町にはつきつきとおしゃれな美容室がオープンした。そんなとき今の床屋に出会った。店構えは昔そのものだけど、きりりと清潔感があり、仲のいい兄弟で営んでいた。兄弟とは年も近く、親しく話すようになった。堅い話から俗っぽい話題までバラエティーに富んでいる。



とくに地元の情報はじつに面白い。昭和の色の濃い昔の様子から、町の間模様まで。床屋は町の社交場のようなだ。多種多様な客が散髪とともに話題も散じていく。あるとき兄の方が嘆いた。「床屋の商売も競争が厳しくて大変。それでも腕では負けませんがね」そう言えば順番待ちで退屈しのぎの雑誌も必要がなくなっている。

散髪時は一ヶ月過ぎたころ。とくに仕事に詰まってくると気分転換に行きたくなる。

その日は、いつもと何かが違っていた。ピカピカの理容椅子が、まるで社長室の立派な椅子のようにデザインと真ん中にあるではないか。「思い切つて」と、兄のほうが鼻をうごめかす。「さ、座つて」と言われて腰掛けると自慢気に電動になった仕掛けを披露した。一通り終えてから、やっとハサミが入った。いつもはじまりは「晴れましたね」と、まずはお天気の話から。なんやかや話しながら、ぼくは極上の椅子でうとうとしはじめていた。

## 「抹茶ホワイトムース」

お休みの日、ゆったりした時間にかが。ほろ苦い抹茶とホワイトチョコの甘さが絶妙にマッチした冷たいムース。白と緑の二段重ねがカワイイ、やさしい味です。



お料理研究家 こいけりえ

## おやつ時間 簡単、美味しい楽ラクレシピ



◎作り方(4人分)  
●下準備  
粉ゼラチン5gは水大さじ2でふやかし、半分ずつにしておく。  
ホワイトチョコ50gは細かくぎざんでおく。生クリーム150mlはトロリとする五分立てくらいまで泡立てて、ラップをしてそのまま冷蔵庫で冷やしておく。

●ホワイトチョコムース  
1個分の卵白を泡立て、砂糖10gを2回に分けて入れ、ふんわりとしたメレンゲを作る。牛乳50mlは電子レンジで50秒温める。温めた牛乳にぎざざんだホワイトチョコレートを加え、混ぜて溶かす。ふやかしたゼラチン半分を加えて混ぜ合わせ、氷水にあててとろみをつける。冷やしておいた生クリーム50mlに溶かしたホワイトチョコを入れて混ぜ合わせ、冷たくなったところへメレンゲを2回に分けて加え、ふんわりと混ぜ合わせる。

ガラスの器4個に、スプーンで均等にかけ入れ、ラップをかぶせて冷蔵庫で冷やしておく。

●抹茶ムース  
砂糖10gに抹茶の粉末小さじ1と2分の1を合わせて混ぜておく。  
抹茶の中に、ホワイトチョコムース同様に温めた牛乳50mlを少しずつ入れ抹茶を溶かし、残りのゼラチンを入れて混ぜる。氷水にあててとろみをつけたら、生クリーム100mlを加え混ぜ合わせる。  
抹茶ムースを固まった上から流し入れ、さらに冷蔵庫で1時間冷やし固める。

◎盛り付け  
生クリーム50mlに砂糖大さじ1を加え、八分立てにしてムースの上に盛り付ける。スライスしたイチゴとチョコスティックで飾り付けたら出来上がり。



ふんわり自然に冷やせるのダコツ



おまかせレシピ

## みてもらおう！おぼろ

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



「今日はなにで遊ぶ？」  
長野市 永岩誠



散歩。幸せです。  
福岡県北九州市  
松中あゆみ



演奏会♪  
千葉県原市  
徳永はるか

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！(詳細は7ページ)

「ちっちゃな頃はイヤでしたよ。なんで僕だけ、みんなと違うんだって。友達はプラスチックの絵つきのものばかりですもん」  
漆塗りの弁当箱は父や母が好きだったので、佳英さんも小学生の頃から、曲げわっぱの弁当箱を当然のように使わせられた。友達の弁当箱がうらやましかった。



いま、日本のお弁当が“BENTO”として世界で有名だそうだ。

このひとつのお弁当箱がパリまで渡って使われている。

「ほんとうかなあ。ぼくなんてまだまだなんだけど」と笑う塩澤さんを静岡県牧之原市にお訪ねしました。



なにより「飯が全然ちがいます。おいしい。」

## 曲げわっぱのお弁当箱

塩澤佳英さん



使っていない時は入れ子にして収納。若い人にも人気。

佳英さんの父親はグラフィックデザイナー。佳英さんの工房には、父親が若いころに描いた絵が飾ってある。「物置にあった。へえー、こんなのも描いていたんだ。いけてるなあと思って」父の影響を受けて、佳英さんも高校生の頃には物作りをしたと思うようになっていた。



木のスプーンや塗り箸も頼まれれば作る。



200kgもある機械の設置は友人たちが手伝ってくれたんです！

ボクの仕事は  
ヒノキを切る  
ヒノキを曲げる  
うるしを塗る  
以上。  
単純そうですけど  
奥はふかい  
いまだに底がみえませんが

今日は曲げる作業  
いいもの作るぞ！  
ヒノキはほんといいにおいやね  
あらたな改善点も  
見つけられました  
自分的には、いいかんじで  
進みます！  
まさに失敗は成功のもと！！

「職人さんになりたいと思ったのは、みんなと同じことではなく、自分だけの特別なことをやってみたくて思ったんです」  
小学生から高校生まで佳英さんが使ったお弁当箱を作ったのは細田豊さん。佳英さんの師匠だ。佳英さんは高校を卒業

すると、細田さんに弟子入り。松の曲げ物と漆の技術を習い、2010年にSHIOZAWA 漆工所をつくった。佳英さんは現在25歳。細田さんは75歳だ。「ほんとうに丁寧に全ての技術を教えてくれた。すごく優しくて尊敬する師匠です」

弁当箱づくりは、型やサイズを決める設計から。材料は柾目の松。佳英さんは探し歩いて、長野県産を使っている。  
弁当箱の側面に使う松を厚さ3mmに切り、その長い板を熱湯で1時間煮る。煮た松を熱いうちに素手で曲げて、合わせ目をとめる。漆は1日1度、薄く塗る。乾いたら重ねて塗って、5・6回繰り返す。だから仕事は急げない。一つ作るのに1カ月ほどかかるので、注文は少しずつしか受けない。「ぼく一人だし、誰かにやってもらったら、あー、この仕上がりがじゃやだと考えた時に困るし…」と心と手間をかけるのに、まだ駆け出しだからと、お店にはないようなお値段で分けてくれる。





ツバメ

静岡県松崎町 土屋君子

我が家の門灯の上にツバメがやってきたのは、10年前。毎年、葉桜の季節に訪ねてくる。しかし、先日、主人がツバメの巣を落つこととしてしまった。何日も旅して辿りついたのに、巣がないことに気づいたツバメは、軒下で不安そうにしている。私は、せつかく子育てに来てくれたんだからと奮起して、稲わらと土をこねて巣作りに挑戦したが、一晩かけても出来ずに断念。仕方なく、少し広めの板にビニール袋をかぶせ、門灯にのせると、翌日からツバメは、せつせと枯葉や土を口にくわえ、巣作りを始めた。

しばらくして、脚立ののって巣を見ると、卵を発見。雛も元気に育ち、4羽とも大きく口を開けて餌のおねだり。見ているだけで力が湧く。遠い国から渡ってくる縁起の良いツバメ。これからも子育て支援をしていきたい。旅立ちの時は寂しいが、また来年。私も1年頑張ろう。

——マイホームマイタウンに来年も帰ってきて。



思いちがい

栃木県宇都宮市 松田洋子

頭痛知らずの私が、その日に限って頭痛がしており、そのまま仕事を続けて帰宅。夕食も済み一段落すると目の下に内出血。徐々に内出血が広がり、主人と娘にすぐに救急外来に行くよう言われました。病院へ行く途中、今日の頭痛は何かの予兆かと不安になりました。

病院に着き、まず眼科へ直行し詳しく検査をするも異常なし。次に脳外科へ行きました。脳外科の先生は私の顔を念入りに見てひとこと。「洗面所で顔を洗ってきてください」

その通りに顔を洗うと、先ほどまであった内出血はどこへやら。そう言えばその日、小包が届き、カーボン紙が手について、そのまま顔をこすったことを思い出しました。恥ずかしさと申し訳なさで、穴があったら入りたい心境でした。

——ドッキリでしたね。



家族の絵

埼玉県三芳町 石井敏男

「いちいちうるさい」5歳の孫娘はこましゃくくれだ。食事中の行儀や道路への飛び出しを注意すると、どこから仕入れたか難しい言葉を駆使して反発。私は毎月2週間ほど娘宅で孫のお守りをするが、毎日が攻防だ。「これじゃ逆ぎれだ」とがっかりして、保育園の送迎や公園遊びの役を妻にまかせて帰宅したこともある。よく叱る爺は孫娘の心の外にいるものと思っていた。

しかし、先日、孫娘がクレヨンで描いた家族の絵が娘宅の居間に飾ってあった。先頭の本人の目は輝いている。小5の兄と大好きなママやパパの目は黒くてまんまる。悪ふざけにも優しい笑顔のパパの隣は私だ。白髪は銀色に塗られ、目も口も笑っている！なぜ笑顔なのか聞くと、「ジイは優しいから」と答えが返ってきた。

——ほんとは好き。



思い出

滋賀県大津市 大石橋和子

今から60年以上前、まだ私が7才の時に父が戦争に行き、私は母と妹と共に疎開。サツマイモや大根のおかゆの日々、父の兄と妹の叔母が私を信州に連れて行くことになりました。

戦時中の汽車は人で溢れ、私は網棚の上に寝て、何度も乗り継ぎ、やっと伊那の叔母の家へ。そこで2年間を過ごしましたが、食事の前は父の写真に手を合わせ「いただきます」。挨拶は厳しく言われ、好き嫌いなく感謝して食べるように教わりました。嫌いな物を涙をこぼしながら飲み込むと、私を見た叔母が「父さんは食べる物もなく戦っているんだよ」と言います。

私は我慢して何でも食べるようになり、そのお陰か73歳になる現在まで、大きな病気ひとつせず元気で過ごしています。97歳で亡くなった叔母の教えは、つらい時代だったけれど宝物。大切な思い出です。

——おばちゃん、ありがとう。



視力

横浜市 遠藤佳子

息子が小学校6年生の頃のお話です。息子の視力が落ちてきたようなので、眼医者さんに連れて行くことにしました。

「どうですか？黒板の字は見えづらいですか？」先生に質問されると、

「はい。前の席の子が大きくて見えませんか？」と息子は答えたのです！

あまりにも衝撃的な発言だったので、私は思わず笑ってしまいました。けれども、「それなら、体をずらすと見えますよ」と先生はニコリと、勘違いした息子に言ってくださいました。先生の優しさに感謝しました。そして、私は母親なのに笑ってしまったので、ちよっぴり反省しました。

——ユーモアはだいじー先生！



父の花

大阪府吹田市 桂照子

子供が置いて行った植物図鑑を開けると「シヤガ」が出てきました。シヤガの花を見ると父を思い出します。

父は仕事人間で、戦地から帰ってからは働きづめでした。私が小学生の頃、新聞紙に包んで友人からもらってきたシヤガを帰るとすぐに父が「庭に植えるように」と言いました。一坪ほどの前庭に植えると、あまり手入れをしないのに、小さな庭いっぱいになり、毎年薄紫の花を咲かせました。高校生の頃に引越した家には一緒に連れて行けませんでした。

時々、道を歩いていると、庭先にシヤガの花を見かけます。家族の知らない父と私の秘密のようで、懐かしさがこみあげてくるのです。

——しよかで強い花ですおね。

初孫！初節句！でした。



和歌山市 中村絵美

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。

紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●送り先  
〒163-0223  
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号  
新宿住友ビル23階(私書箱47号)

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室  
電話 03(5909)6703  
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます  
http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html

●4-5ページの「SHIOZAWA漆工所」の連絡先  
電話：080-3683-0831（塩澤佳英さん）  
e-mail: urushi-shiozawa@shizuoka.tnc.ne.jp  
ホームページ: http://www.4.tokai.or.jp/urushi-shiozawa/  
※ご注文される場合、仕上がりまで時間をいただくこともあるそうです。

あなたのお便りや写真をお寄せください

燈々無尽

働く幸せ

世の中には、折角の美しい服を与えられても、丁度よっぽらいが、引きずって歩くように、自分の美しい人生を、ぐうたらなものにしてしまう人が余りにも多い事です。楽しんでみましょう！

しあわせを自分のものにしませう。

それには、汗水流して、他の人のために役に立つ働きをする事、そうして、与えられた服を、美しく着こなして、胸を張って、堂々と生きてゆく事です。

しあわせとは、全力をつくして働くことです。

鈴木清一

愛の輪からのコラム

人にやさしいグローバルな視点って？

人が安心して渡れるロンドンの横断歩道



横断歩道を渡る時は車に注意して渡りますね。ロンドンの小さな横断歩道では、先端に黄色い球体がついた棒状の目印があって人が居ると必ず車が「どうぞ」と譲ってくれるから安心です。横断歩道も車道が手前から緩やかに傾斜して歩道の高さに。車も自然にスピードを緩めます。歴史的景観を守る石畳の道が高齢者や車いすに負担でも、やさしいマナーが人を守っています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。  
☎06-6821-5270 HP (http://www.ainowa.jp/)

愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修支援を行っています。

ダスキン創業50周年記念

「オタメシクーポン」配布中！  
「オタメシ祭り」も開催中！



オタメシクーポン

ダスキンの様々な商品・サービスがお得にご体感いただける「オタメシクーポン」を配布中。全国のショッピングセンターなどで、ダスキンの人気商品・サービスを体感できる「オタメシ祭り」も開催中です。  
※「オタメシクーポン」については、担当加盟店におたずねください。

「オタメシ祭り」の詳細は  
WEBでご覧いただけます。



パソコンからは  
ダスキン50周年 検索



スマホ/ケータイ  
はこちらから▶▶



または、ダスキンコールセンター  
(TEL:0120-100100)におたずねください。

あなたの声が原点です。  
私たちは、そのお声とともに歩みつづけます。

ダスキンが大切にしたいのは、あなたの声——。  
ぜひ、あなたの想いをお聞かせください。

お客様の声はインターネットにて承っております。

ダスキンお客様の声 検索

www.duskin.jp/voice

今号のキーワード

「オタメシ」

ハガキに書いてご応募ください！

抽選で30名様に  
「キッチン衛生セット」を  
プレゼント！



下記の要領でご応募ください。

- ハガキに
  - ①今号のキーワード ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢
  - ⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名
  - ⑨この新聞内で好きなコーナー
  - ⑩ダスキンとの印象深い思い出
 をご記入の上、下記あて先までお送りください。
- 応募専用のあて先 ※郵便番号とあて先のみで届きます。  
〒163-0265 住所は不要です。  
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.530」プレゼント係
- 締め切り 平成25年6月14日(金)当日消印有効
- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成25年7月上旬お届け予定)
- 応募に関してのお問い合わせ TEL: 03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。  
※ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

今回ご応募いただいた個人情報は、(株)ダスキンにおいてプレゼントの抽選や賞品の発送に利用させていただきます。ご記入いただいたコメントに関しては、弊社ホームページ「ダスキン50周年記念ページ」上にて掲載させていただく場合がございます。掲載内容:コメント、都道府県、性別、年齢(但し、掲載させていただく際に、コメントの文意を変えない範囲で編集をする場合がございます)。個人情報に関するお問い合わせやご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」プレゼント係(TEL:03-5909-6703)までご連絡ください。

株式会社 **ダスキン**

発行：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報の取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。

個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

**0120-100100** www.duskin.co.jp